

## MALDI biotyper®の A、C、G 群 β 溶血性レンサ球菌に対する同定能評価

©萩原 秀<sup>1)</sup>、日暮 芳己<sup>1)</sup>、森屋 恭爾<sup>1)</sup>  
東京大学医学部附属病院<sup>1)</sup>

【目的】A、C、G 群 β 溶血性レンサ球菌に対する MALDI biotyper® (以下、MBT ブルカー・ダルトニクス) の同定能評価に関する報告は少ない。本検討では当院臨床分離株を対象に、その同定能を生化学的性状による同定をゴールドスタンダードとして評価した。

【方法】2010 年 1 月～2017 年 3 月の間に当院血液培養検査にて分離された A、C、G 群 β 溶血性レンサ球菌保存株

(58 株) を対象とした。まず VITEK2® (ビオメリュー・ジャパン) による生化学的性状検査による同定を行なった。MBT による同定はコロニーを直接ターゲットプレートに塗布して行うダイレクトスメア法 (以下、DS 法) と、エタノール・ギ酸法を用いてタンパク抽出した試料を用いて行う抽出法 (以下、EX 法) の 2 種類を行い、各々の方法で得られるベストマッチ菌名と信頼度カテゴリー (A: 菌名レベル、B: 属名レベル、C: 整合性なし) をコントロール菌名と比較・評価した。

【結果】生化学的同定では 58 株中 14 株が *Streptococcus pyogenes*、44 株が *Streptococcus dysgalactiae* と同定された。

*S. pyogenes* 株は DS 法、EX 法で得られたベストマッチ菌名とコントロール菌名が 100%(14/14) 一致した。また信頼度カテゴリーは DS 法で 85.7%(12/14)、EX 法で 92.9%

(13/14) が A 評価だった。一方で *S. dysgalactiae* 株は、DS 法で 88.6% (39/44)、EX 法で 97.7% (43/44) においてベストマッチ菌名とコントロール菌名が一致した。菌名一致例のうち信頼カテゴリーが A 評価であったのは DS 法で 38.5% (15/39)、EX 法で 72.1% (31/43) であった。菌名不一致例は全て *Streptococcus canis* と同定されており、DS 法で *S. canis* と同定された 5 株のうち 1 株の信頼度カテゴリーが A 評価であり、誤同定される危険性が示唆された。

【結論】本検討では、MBT は *S. pyogenes* に対しては良好な同定能を示した。*S. dysgalactiae* においては菌名の不一致例がみられ、*S. dysgalactiae* の同定では誤同定を防ぐためにも生化学的性状の確認が不可欠であると考えられた。